

騎士領リンバッハ（西ザクセン）における領主制地代の償却(3)

松 尾 展 成

第1節 ザイデルによる領主制地代償却協定の翻刻（本誌37巻3号）

第2節 全国委員会文書第1659号（本誌38巻1号）

第3節 全国委員会文書第1660号

- (1) 賦役・現物賃租義務者全員の氏名とその不動産
- (2) 各義務的不動産の土地負担とその償却地代額・償却一時金額
- (3) 償却地代額・償却一時金額の合計

第4節 全国委員会文書第8173号

- (1) 保有移転貢租義務者全員の氏名とその不動産および償却地代額・償却一時金額
- (2) 償却地代額・償却一時金額の合計

第3節 全国委員会文書第1660号

(1) 賦役・現物賃租義務者全員の氏名とその不動産

ザイデルが紹介した、第2の償却協定は、全国委員会文書から見ると、第1660号、「ケムニッツ近郊の騎士領リンバッハとオーバーフローナ、ミッテルフローナ、モースドルフ、プロインスドルフ、ブルカースドルフおよびゲッパースドルフの住民との間の、1839年6月20日－1840年3月28日の賦役・〔現物〕賃租償却協定⁽¹⁾」である。

本稿第2節の協定と同じように、ザイデルは上記の協定の序文については義務者の村別総数（6村100人）を示しただけであり、第4条に関しては義務者各人の賦役・現物賃租の明細とその償却金額を省略している。そこで、まず、本協定序文に記された義務者全員の姓名を、一連番号順に紹介する。（ ）内は義務的不動産の種類を示す。それらの判読には、第4条に記載された同一事項を参考にした。不動産の中の Hufengut には、具体的な数詞が付加されている⁽²⁾。そこで、例えば、 $\frac{3}{4}$ Hufengut は $\frac{3}{4}$ フーフェと訳した。そして、それら全体をフーフェ地と総称することとする。その他の点では本稿第2節（1）と同じである。

第1表 賦役・現物賃租義務者全員の氏名とその不動産

(i) オーバーフローナ

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1. Johann Gottfried Dietrich（園地） | 5. Carl Gottlob Kluge（家屋） |
| 2. Johann Samuel Sonntag（園地） | 6. Johann Gottlob Frischmann（家屋） |
| 3. Johann Gottfried Berger（園地） | 7. Carl Friedrich Horn（家屋） |
| 4. Johann Gottfried Grobe（園地） | 8. Johann Gottlieb Eichler（家屋） |

9. Benjamin Heil (家屋)
10. Johann Gottlieb Heinig (園地)
11. Christian Gottfried Gränz (家屋)
12. Friedrich Ferdinand Pester (家屋)
13. Johann Gottlieb Bräutigam (家屋)
14. Johann David Martin (家屋)
15. Johann Michael Heinig (家屋)
16. Ernst Gottlob Landgraf (家屋)
17. Johann Gottlieb Bley (家屋)
18. Johann Gottlob Kühnert (家屋)
19. Johann August Neuhaus (家屋)
20. Friedrich Gottlob Lippmann (製粉水車)
21. Johann Gottfried Vettermann (家屋)
22. Christian Hofmann (家屋)
23. Johann Samuel Winkler (家屋)
24. Christoph Hahn (家屋)
25. Christian Gottlieb Clauß (家屋)
26. 妻 Johanne Dorothee Fürst (家屋)
27. Johann Gottlob Roscher (家屋)
28. 妻 Johanne Sophie Polster (家屋)
29. Christian Friedrich Schülze (家屋)
30. Johann Gottfried Irmischer (家屋)
31. Johann Gottfried Müller (家屋)
32. Johann Gottlieb Lange (家屋)
- (ii) ミッテルフローナ
56. Samuel Friedrich Landgraf (1 フーフエ)
57. Christian Friedrich Heinzig ($\frac{3}{4}$ フーフエ)
58. August Richter ($\frac{1}{2}$ フーフエ)
59. Johann Gottfried Schönfeld ($\frac{1}{2}$ フーフエ)
60. Johann Gottlieb Heilmann ($\frac{1}{2}$ フーフエ)
61. Salomo Friedrich Pester ($\frac{3}{4}$ フーフエ)
62. Gottlieb Landgraf ($\frac{1}{4}$ フーフエ)
63. Gottlieb Köthe ($\frac{1}{4}$ フーフエ)
64. 未亡人 Eva Sofine Heilmann ($\frac{2}{4}$ フーフエ)
65. Johann Gottfried Steiner (園地)
66. Johann Michael Zeißler ($\frac{1}{2}$ フーフエ)
33. Johann August Steinert (園地)
34. Carl Gottlob Naumann (園地)
35. Carl Gottlob Grobe (家屋)
36. Johann Gottlob Präger (家屋)
37. Gotthold Ludewig (家屋)
38. Carl Gottlob Polster (家屋)
39. Christian Friedrich Kretzschmar (家屋)
40. Carl Friedrich Lindner (家屋)
41. Carl Heinrich Steinert (家屋)
42. Carl Gottlieb Fischer (家屋)
43. Johann George Eckert (家屋)
44. Johann Gottlieb Kühnrich (家屋)
45. Carl Friedrich Schlegel (家屋)
46. Carl Traugott Friedrich Weiß (家屋)
47. Carl August Schneider (家屋)
48. Johann Gottlieb Götze (家屋)
49. Carl Gottlob Clauß (家屋)
50. Johann Samuel Grobe (家屋)
51. Johann Gottlieb Grobe (家屋)
52. Johann Gottfried Kühnert (家屋)
53. Carl Heinrich Schulze (家屋)
54. 妻 Amalie Michaelis (園地と宿屋)
55. Johann Gottlieb Grobe (家屋)
67. Johann Gottlieb Martin (家屋)
68. Johann David Winkler (家屋)
69. Samuel Friedrich Kluge (家屋)
70. Johann Gottfried Müller (家屋)
71. Johann Gottlieb Schuhmann (家屋)
72. Johann Gottlieb Heilmann (家屋)
73. Johann Gottfried Heilmann (家屋)
74. Johann Michael Heinzig (家屋)
75. Johann Gottfried Viehweg (家屋)
76. 未亡人 Marie Rosine Berger (家屋)
77. Johann Gottlieb Landgraf (家屋)

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 78. Karl Friedrich Grobe（家屋） | 84. Hanne Christiane Müller（家屋） |
| 79. Gottfried Fiedler（家屋） | 85. Johann Gottlieb Puschart（家屋） |
| 80. Johann Samuel Kühnert（家屋） | 86. Karl Friedrich Fürst（家屋） |
| 81. Heinrich Ludwig Zschocke（家屋） | 87. Johann Samuel Friedrich Türpe（家屋） |
| 82. 妻 Johanne Christiane Heil（家屋） | 88. Johann Gottlieb Köthe（家屋） |
| 83. Johann Karl Rupf（家屋） | 89. Johann Gottfried Fritzsche（家屋） |
| (iii) モースドルフ | |
| 90. Ehrenfried Knorr（ $\frac{1}{2}$ フーフエ） | |
| (iv) プロインスドルフ | |
| 91. Johann Gottfried Fiedler（家屋） | 95. 妻 Marie Rosine Kinder（園地） |
| 92. Johann Samuel Ittner（園地） | 96. Johann Gottlieb Lösch（家屋） |
| 93. 未亡人 Johanne Christiane Heinzig（家屋） | 97. Gottfried Bretschneider（家屋） |
| 94. 妻 Johanne Rosine Lindner（家屋） | |
| (v) ブルカースドルフ | |
| 98. Johann Samuel Kühn（ $\frac{3}{4}$ フーフエ） | 99. Johann August Hoppe（園地） |
| (vi) ゲッパースドルフ | |
| 100. Johann Samuel Zacharias（水車の土地） | |

この協定の賦役・現物賃租義務者は本稿第2節の協定の賦役義務者といくらか異なる。第1に、小屋住農と園地農ばかりでなく、1フーフエないし $\frac{1}{4}$ フーフエを所有するフーフエ農民も、義務者として含まれている。第2に、1個の不動産が複数の所有者に属する事例はない。ある不動産所有者が複数の不動産を所有する、と明示された事例もない。ただし、一連番号51と55は同一村落内の同姓同名者であり、二人が同一人であるとする、義務者の実数は1人だけ減少して、99人になるであろう。

(注1) Sächsisches Hauptstaatsarchiv, 10737, Generalkommission für Ablösungen und Gemeinheitsteilungen, Nr. 1660, Frohn- und Zinsablösungsrezeß vom 20. Junius 1839 / 28. März 1840 zwischen dem Rittergut Limbach bei Chemnitz und den Einwohnern in Oberfrohe, Mittelfrohe, Mohsdorf, Bräunsdorf, Burkersdorf und Göppersdorf.

(注2) 一連番号56は、1 Hufengut と記される場合と、数詞を付けずに Pferdehufengut と記される場合とがあるけれども、本稿では1フーフエとした。

(2) 各義務的不動産の土地負担とその償却地代額・償却一時金額

ザイデルはこの償却協定の第4条については1段落だけを紹介している。その段落の後に本協定は、各義務者の土地負担（賦役と現物賃租）の詳細と償却地代額・償却一時金額を一連番号順に記載している。この場合の義務者は厳密には義務的不動産と見なされるべきである。第2表は、それを土地負担の種類と数量、償却地代額・償却一時金額の順序で整理したものである。土地負担の種類と数

量、そして、償却地代合計額が同じである義務的不動産は、一括した。償却一時金による償却は一連番号98-100についてのみ実施されたが、その金額はそれぞれ異なる。その他の点では前節(2)と同様である。なお、133ページは本協定第4条の最初の2ページを示している。

第2表 各義務的不動産の土地負担とその償却地代額・償却一時金額

- 1, 2, 4, 10, 15, 16, 33, 34. 大鎌刈り取り2日6G, 掻き寄せ3日7G6P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G.
(各計) 15G6P.
- 3, 6, 8, 9, 12-14, 19, 20, 24, 25, 28, 32, 36, 67, 69, 76, 80. 大鎌刈り取り2日6G,
掻き寄せ2日5G, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G. (各計) 13G.
- 5, 17, 18, 27, 29-31, 35, 39, 41, 43. 大鎌刈り取り1日3G, 掻き寄せ2日5G, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸
2G. (各計) 10G.
- 7, 11, 21-23, 26. 大鎌刈り取り1日3G, 掻き寄せ3日7G6P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G. (各計) 12G
6P.
- 37, 72, 85. $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸. (各計) 2G.
- 38, 40, 44-47. 大鎌刈り取り1日2G, 掻き寄せ2日3G4P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸1G4P. (各計) 6G8
P.
42. 大鎌刈り取り1日2G, 掻き寄せ1日1G8P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸1G4P. (計) 5G.
- 48-53. 大鎌刈り取り1日2G, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸1G4P. (各計) 3G4P.
54. 大鎌刈り取り1日3G, 掻き寄せ2日5G. (計) 8G.
55. 御館賦役3日. (計) 6G.
56. 9ペーニヒ・シェップフェル⁽¹⁾の賃租燕麦. (計) 14T10G4P.
57. 4ペーニヒ・シェップフェルの賃租燕麦. (計) 6T10G.
58. 4ペーニヒ・シェップフェル3ジップマース⁽¹⁾の賃租燕麦. (計) 7T14G8P.
59. 2ペーニヒ・ジップマースと1[ジップ]マース(?)の賃租燕麦. (計) 22G.
60. $\frac{1}{4}$ ペーニヒ・シェップフェルの賃租燕麦. (計) 2T.
61. 2ペーニヒ・シェップフェル2 $\frac{1}{2}$ ジップマースの賃租燕麦. (計) 4T5G.
62. $\frac{1}{2}$ ペーニヒ・シェップフェル1[ジップ]マース(?)の賃租燕麦. (計) 22G.
63. 1ドレースデン・シェップフェル⁽¹⁾の賃租燕麦. (計) 22G.
64. 2ペーニヒ・シェップフェル3ジップマース2ネーゼル⁽¹⁾の賃租燕麦. (計) 4T12G4P.
65. $\frac{1}{2}$ ペーニヒ・シェップフェルの賃租燕麦. [賃租計] 19G; 大鎌刈り取り2日6G, 掻き寄せ2日5
G, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G. [賦役計] 13G. (合計) 1T8G.
66. 2ペーニヒ・シェップフェル3ジップ[マース]の賃租燕麦. (計) 4T9G8P.
- 68, 73, 74, 77-79, 82, 84. 大鎌刈り取り1日3G, 掻き寄せ2日4G9P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G. (各
計) 9G9P.
- 70, 71, 75, 83. 大鎌刈り取り3日9G, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G. (各計) 11G.
81. 大鎌刈り取り2日6G, 掻き寄せ3日7G3P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸2G. (計) 15G3P.

86-89. 大鎌刈り取り 1 日 3 G, 掻き寄せ 1 日 2 G 6 P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸 2 G. (各計) 7 G 6 P.

90. 1ペーニヒ・シェッフエルの賃租パン穀物と 1 ペーニヒ・シェッフエルの賃租燕麦. (計) 5 T 2 G 4 P.

91, 92, 94. 大鎌刈り取り 2 日, 掻き寄せ 2 日, 紡糸. (各計) 13G⁽²⁾.

93, 95-97. 大鎌刈り取り 2 日, 掻き寄せ 3 日, 紡糸. (各計) 15G⁽³⁾.

98. 賃租鶏 1 $\frac{1}{2}$ 羽. 償却一時金. 4T16G 6 P.

99. 賃租鶏 $\frac{1}{2}$ 羽. 償却一時金. 1T13G 6 P.

100. 賃租鶏 1 羽. 償却一時金. 3T 3 G.

上に記された賦役のうち、一連番号55の「御館賦役」は内容が不明である。これは3日で6G（1日当たりで2G）と評価されている。これと同等な賦役は、一連番号48-53などの「大鎌刈り取り」である。ただし、54などでは「大鎌刈り取り」がそれよりも高く、1日当たり3Gと評価されている。いずれにせよ、その償却地代額が低いので、あの「御館賦役」は手賦役と考えられる。このように想定すると、本協定で償却された賦役は、連畜賦役を含まず、すべて手賦役であったであろう。

(注1) ザクセン州立中央文書館の教示によれば、1ペーニヒ・シェッフエルは約730リットルであり、また、1[ジープ]マース [Sieb-]Maß (ジップマース Sippmaß) は約183リットルであり、さらに、1ネーゼル Nösel (ネーセル Nößel) は約0.5リットルであった。それに対して、1ドレースデン・シェッフエルは約105リットルであった。

(注2) 一連番号91, 92, 94の賦役は大鎌刈り取り 2 日, 掻き寄せ 2 日, 紡糸であり、その償却地代額は (各計) 13G である。これは、一連番号 3, 6, などで同額の償却地代に評価されている賦役、大鎌刈り取り 2 日 6 G, 掻き寄せ 2 日 5 G, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸 2 G と同一である。したがって、前者の各賦役の評価額と紡糸量は後者のそれと同一であろう。

(注3) 一連番号93, 95-97の大鎌刈り取り 2 日, 掻き寄せ 3 日, 紡糸. (各計) 15G, では、各賦役の評価額と最後の賦役の量が記されていない。これは、賦役の種目と量 (紡糸の量を除く) および償却地代合計額において、一連番号 1, 2, 4, 10, 15, 16, 33, 34における大鎌刈り取り 2 日 6 G, 掻き寄せ 3 日 7 G 6 P, $\frac{1}{2}$ 巻の紡糸 2 G. (各計) 15G 6 P, と非常に類似している。

(3) 償却地代額・償却一時金額の合計

本償却協定は1839年6月20日に作成された。この日付は、前節で紹介した全国委員会文書1659号のそれよりも1日早い。しかし、全国委員会は前節の協定と同日(1840年3月28日)に、主任 Nostitz und Jänckendorf の署名によって本協定を承認した。その文言は1659号のそれとほぼ同じであった。ただし、本協定本文と全国委員会の承認の文言との間には、前節の協定と同じように、一部は特別委員会による、一部は全国委員会による字句の訂正などが挿入されている。それらは、義務者の姓名、所有する不動産の名称と登録番号、義務の種類と数量などに関わる。そのいくらかは協定本文ですでに加筆修正されている。しかし、それらは各義務的不動産の償却地代額ないし償却一時金額を変更するものではなかった。そのために、その紹介は省略する。

本協定は賦役と現物質租を償却の対象とした。賦役はすべて手賦役であったろう。第2表を基礎として、負担種目別に償却地代額と償却一時金額の総額の算出を試みよう。以下の第3表(賦役の償却

地代額)と第4表(現物賃租の償却地代額)において、第1項はそれぞれの義務的不動産の償却地代額を、小さい順に配列した。なお、園地と宿屋を兼ねる54は、園地とした。[]の数字(第2項)は、第1項の償却地代額を負担する義務的不動産の一連番号である。第3項、〈一個；-T-G-P〉の中の前の数字は、第2項の義務的不動産の合計個数を、後の数字は償却地代額の個数分合計を示す。現物賃租の償却一時金に関する第5表の第1項と第3項は、前の2表と異なり、償却一時金額を示す。第2項は前の2表と同じである。

第3表 義務的不動産の賦役償却地代額の村別一覧

(i) オーバーフローナ（8園地、46家屋と1水車）

2 G. [37] 〈1個；2 G〉
 3 G 4 P. [48-53] 〈6個；20 G〉
 5 G. [42] 〈1個；5 G〉
 6 G. [55] 〈1個；6 G〉
 6 G 8 P. [38, 40, 44-47] 〈6個；1 T 16 G〉
 8 G. [54] 〈1個；8 G〉
 10 G. [5, 17, 18, 27, 29-31, 35, 39, 41, 43] 〈11個；4 T 14 G〉
 12 G 6 P. [7, 11, 21-23, 26] 〈6個；3 T 3 G〉
 13 G. [3, 6, 8, 9, 12-14, 19, 20, 24, 25, 28, 32, 36] 〈14個；7 T 14 G〉
 15 G 6 P. [1, 2, 4, 10, 15, 16, 33, 34] 〈8個；5 T 4 G〉

(ii) ミッテルフローナ（1園地と23家屋）

2 G. [72, 85] 〈2個；4 G〉
 7 G 6 P. [86-89] 〈4個；1 T 6 G〉
 9 G 9 P. [68, 73, 74, 77-79, 82, 84] 〈8個；3 T 6 G〉
 11 G. [70, 71, 75, 83] 〈4個；1 T 20 G〉
 13 G. [65, 67, 69, 76, 80] 〈5個；2 T 17 G〉
 15 G 3 P. [81] 〈1個；15 G 3 P〉

(iv) プロインスドルフ（2園地と5家屋）

13 G. [91, 92, 94] 〈3個；1 T 15 G〉
 15 G. [93, 95-97] 〈4個；2 T 12 G〉

第4表 義務的不動産の現物賃租償却地代額の村別一覧

(ii) ミッテルフローナ（10フーフエ地と1園地）

19 G. [65] 〈1個；19 G〉
 22 G. [59, 62, 63] 〈3個；2 T 18 G〉
 2 T. [60] 〈1個；2 T〉
 4 T 5 G. [61] 〈1個；4 T 5 G〉

4 T 9 G 8 P. [66] < 1 個 ; 4 T 9 G 8 P >

4 T 12 G 4 P. [64] < 1 個 ; 4 T 12 G 4 P >

6 T 10 G. [57] < 1 個 ; 6 T 10 G >

7 T 14 G 8 P. [58] < 1 個 ; 7 T 14 G 8 P >

14 T 10 G 4 P. [56] < 1 個 ; 14 T 10 G 4 P >

(iii) モースドルフ (1 フーフエ地)

5 T 2 G 4 P. [90] < 1 個 ; 5 T 2 G 4 P >

第 5 表 義務的不動産の現物賃租償却一時金額の村別一覧

(v) プルカースドルフ (1 フーフエ地と 1 園地)

1 T 13 G 6 P. [99] < 1 個 ; 1 T 13 G 6 P >

4 T 16 G 6 P. [98] < 1 個 ; 4 T 16 G 6 P >

(vi) ゲッパースドルフ (1 水車)

3 T 3 G. [100] < 1 個 ; 3 T 3 G >

なお、本稿第 2 節における一連番号 64 の水車は特殊な賦役を課されており、それは同節の他の家屋よりも遙かに重かった。しかし、本償却協定の 2 水車の負担 (一連番号 20 の賦役と 100 の現物賃租) は、本協定の他の不動産と比較して重くない。

第 3 - 第 5 表の数字を集計した、償却地代額・償却一時金額の負担種目別・村別合計は第 6 表に示される。{|} の数字は償却一時金額 ((A) と (B) にあつては、第 3 - 第 4 表の償却地代合計の 25 倍額) である。

第 6 表 償却地代額・償却一時金額の負担種目別・村別合計

(A) 賦役償却地代額

(i) オーバーフローナ (8 園地, 46 家屋と 1 水車)	22 T 20 G - P	{ 570 T 20 G - P }
------------------------------------	---------------	--------------------

(ii) ミッテルフローナ (1 園地と 23 家屋)	9 T 20 G 3 P	{ 246 T 2 G 3 P }
-------------------------------	--------------	-------------------

(iv) プロインスドルフ (2 園地と 5 家屋)	4 T 3 G - P	{ 103 T 3 G - P }
------------------------------	-------------	-------------------

(A) 合計	36 T 19 G 3 P	{ 920 T 1 G 3 P }
--------	---------------	-------------------

(B) 現物賃租償却地代額

(ii) ミッテルフローナ (10 フーフエ地と 1 園地)	47 T 3 G - P	{ 1, 178 T 3 G - P }
----------------------------------	--------------	----------------------

(iii) モースドルフ (1 フーフエ地)	5 T 2 G 4 P	{ 127 T 10 G 4 P }
--------------------------	-------------	--------------------

(B) 合計	52 T 5 G 4 P	{ 1, 305 T 13 G 4 P }
--------	--------------	-----------------------

(C) 現物賃租償却一時金額

(v) プルカースドルフ (1 フーフエ地と 1 園地)	6 T 6 G - P
--------------------------------	-------------

(vi) ゲッパースドルフ (1 水車)	3 T 3 G - P
------------------------	-------------

(C) 合計	9 T 9 G - P
--------	-------------

第6表から、第1に、(A)と(B)を償却一時金に換算し、第2に、同一負担種目である(B)と(C)の数字を加算して、賦役と現物賃租の償却地代額と償却一時金額の種目別総計（償却一時金換算）を表示したものが、第7表である。なお、一連番号65の園地が賦役と現物賃租とを同時に償却したために、最終行における園地の合計個数は、(a)と(b)の園地の合計数よりも1だけ少なくなっている。

第7表 賦役・現物賃租の償却地代額・償却一時金額の種目別総計（償却一時金換算）

(a) 賦役（11園地、74家屋と1水車）	920T 1 G 3 P
(b) 現物賃租（12フーフェ地、2園地と1水車）	1,314T 22G 4 P
両負担総計（12フーフェ地、12園地、74家屋と2水車）	2,234T 23G 7 P

第6表から、償却一時金額に換算した村別総計を算出すると、第8表が得られる。

第8表 賦役・現物賃租の償却地代額・償却一時金額の村別総計（償却一時金換算）

(i) オーバーフローナ	
(a) 賦役（8園地、46家屋と1水車）	570T 20G-P
(ii) ミッテルフローナ	
(a) 賦役（1園地と23家屋）	246T 2 G 3 P
(b) 現物賃租（10フーフェ地と1園地）	1,178T 3 G-P
(ii) 合計（10フーフェ地、1園地と23家屋）	1,424T 5 G 3 P
(iii) モースドルフ	
(b) 現物賃租（1フーフェ地）	127T 10G 4 P
(iv) プロインスドルフ	
(a) 賦役（2園地と5家屋）	103T 3 G-P
(v) プルカースドルフ	
(b) 現物賃租（1フーフェ地と1園地）	6 T 6 G-P
(vi) ゲッパースドルフ	
(b) 現物賃租（1水車）	3 T 3 G-P
6村総計（12フーフェ地、12園地、74家屋と2水車）	2,234T 23G 7 P

本協定が対象とした、賦役と現物賃租の償却地代額と償却一時金額の総計は、償却一時金に換算すると、第7表と第8表の最下段に示されているように、6村の不動産100個（12フーフェ地、12園地、74家屋と2水車）から2,234T 23G 7 Pである。その中で、賦役の償却一時金は3村の不動産86個（11園地、74家屋と1水車）から920T 1 G 3 Pであり、現物賃租のそれは4村の不動産15個（12フーフェ地、2園地と1水車）から1,314T 22G 4 Pであった。義務的村落の総数が、賦役の負担村数と現物賃租のそれを加算した村数よりも1だけ少ない理由は、すでに述べたとおりである。

第4節 全国委員会文書第8173号

(1) 保有移転貢租義務者全員の氏名とその不動産および償却地代額・償却一時金額

ザイデルが紹介した、第3の償却協定は、全国委員会文書から見ると、第8173号、「騎士領リンバッハとリンバッハ、ケンドラーおよびケーテンスドルフの土地所有者との間の、1851年10月6日ー12月31日の保有移転貢租償却協定⁽¹⁾」である。

本稿第2節と第3節で検討した協定と同じように、ザイデルは保有移転貢租義務者の村別総数（3村63人）を示しただけである。しかし、本協定の第4条は村別・一連番号順に保有移転貢租義務者全員の氏名、その不動産の種類・登録番号、さらに、権利者への償却一時金額、ないし、委託地代銀行への償却地代額と（領主に直接支払うべき償却地代）端数、を表示している。協定序文の義務者氏名を参考にしつつ、第4条を判読したものが、第1表である。なお、第4条の不動産のうち Guth は、協定序文では農耕地（Bauernguth）と表現されているので、[農民] 地と訳した。不動産登録番号は省略した。償却一時金でなく、償却地代によって償却する不動産において、各項目最後の（地代計）は、委託地代銀行に委託される償却地代額（地代と略記）と償却地代端数（端数と略記）との合計であり、端数がない場合でも、記載した。139ページは本協定第4条の最初の2ページを示している。

第1表 保有移転貢租義務者全員の氏名とその不動産および償却地代額・償却一時金額

(i) リンバッハ

1. Ludwig Scherf ([農民] 地). 地代 3 T17G 2 P, 端数 2 P. (地代計 3 T17G 4 P)
2. Johann Samuel Schönfeld (家屋). 償却一時金 8 T 7 G 5 P.
3. Friedrich August Naumann (家屋). 償却一時金 9 T 5 G.
4. Heinrich Gottlob Friedrich Winkler (家屋). 償却一時金 3 T10G.
5. Christian Friedrich Zimmerman (家屋). 償却一時金 3 T20G.
6. Friedrich August Naumann (耕地 1 枚). 償却一時金 20G.
7. Christian Friedrich Schrapf (家屋). 地代 11G 2 P, 端数 3 P. (地代計 11G 5 P)
8. Friedrich Wilhelm Landgraf ([農民] 地). 地代 1 T22G 8 P, 端数 3 P. (地代計 1 T23G 1 P)
9. Johann Michael Hartig ([農民] 地). 地代 2 T16G 8 P, 端数 2 P. (地代計 2 T17G)
10. 同上 (採草地と池). 地代 2 G 8 P, 端数 1 P. (地代計 2 G 9 P)
11. Friedrich Wilhelm Ehrhard (耕地 1 枚). 地代 8 P, 端数 2 P. (地代計 1 G)
12. Gottfried Hertzsch ([農民] 地). 地代 4 T 5 G 6 P, 端数 2 P. (地代計 4 T 5 G 8 P)
13. August Friedrich Lehmann (家屋). 地代 1 T 2 G. (地代計 1 T 2 G)
14. Christiane Amalie Seyffart (家屋). 地代 1 T22G 8 P, 端数 1 P. (地代計 1 T22G 9 P)
15. August Ferdinand Pester (家屋). 地代 19G 6 P. (地代計 19G 6 P)
16. Christian Friedrich Semmler (家屋). 地代 8 G 4 P, 端数 1 P. (地代計 8 G 5 P)
17. Gottlob Friedrich Horn (家屋). 地代 12G 8 P, 端数 1 P. (地代計 12G 9 P)
18. Heinrich Reinhold Thate (家屋). 償却一時金 1 T15G.

19. Carl Friedrich Adam Steinbach (家屋). 地代 4 G, 端数 3 P. (地代計 4 G 3 P)
20. Carl Gottlob Pester (家屋). 地代 8 G, 端数 3 P. (地代計 8 G 3 P)
21. Carl Friedrich Funke (家屋). 地代 5 G 2 P. (地代計 5 G 2 P)
22. Johann Hengsbach (家屋). 地代 1 T 7 G 6 P, 端数 3 P. (地代計 1 T 7 G 9 P)
23. Johann Christian Friebe (家屋). 地代 17 G 6 P, 端数 1 P. (地代計 17 G 7 P)
24. Johann Gottlieb Berthold (家屋). 地代 16 G 4 P, 端数 3 P. (地代計 16 G 7 P)
25. Johanne Marie Höbler (家屋). 地代 4 G 8 P, 端数 2 P. (地代計 5 G)
26. Johann Gottlob Müller (家屋). 償却一時金 9 T 22 G 5 P.
27. Johann Christian Friebe (家屋). 地代 17 G 2 P, 端数 1 P. (地代計 17 G 3 P)
28. Gottfried Moritz Harzdorf (家屋). 地代 1 T 6 G. (地代計 1 T 6 G)
29. Friedrich Wilhelm Ehrhard (家屋). 地代 1 T 18 G 8 P, 端数 2 P. (地代計 1 T 19 G)
30. Wilhelm Walther Uhlig (家屋). 地代 13 G 2 P, 端数 2 P. (地代計 13 G 4 P)
31. Carl Heinrich Herrmann Lindner (家屋). 地代 1 T 4 G. (地代計 1 T 4 G)
32. Carl Gottlob Pester (家屋). 地代 3 G 2 P, 端数 3 P. (地代計 3 G 5 P)
33. Christian August Fuchs (家屋). 地代 24 G, 端数 3 P. (地代計 24 G 3 P)
34. Dorothee Friederike Schubert (家屋). 償却一時金 15 T.
35. Carl Wilhelm Moritz Bernhard (家屋). 地代 7 G 2 P, 端数 1 P. (地代計 7 G 3 P)
36. Johanne Rosine Türpe (家屋). 地代 26 G 4 P, 端数 1 P. (地代計 26 G 5 P)
37. Gottfried Schnabel (家屋). 地代 10 G 4 P, 端数 3 P. (地代計 10 G 7 P)
38. Gottlieb Winkler (「農民」地). 償却一時金 16 T 20 G.
39. Reinhold Schübler (家屋). 地代 11 G 6 P, 端数 1 P. (地代計 11 G 7 P)
40. Carl Friedrich Pfüller (家屋). 償却一時金 20 G.
41. Gottlob David Türpe (家屋). 地代 4 T. (地代計 4 T)
42. Caroline Therese Nauman (耕地 1 枚, 採草地と池). 地代 28 G 8 P, 端数 2 P. (地代計 29 G)
43. 同上 (家屋). 地代 3 T 27 G 6 P. (地代計 3 T 27 G 6 P)
44. 同上 (家屋). 地代 2 T 3 G 2 P, 端数 2 P. (地代計 2 T 3 G 4 P)
- (ii) ケンドラー
45. Gottlob Friedrich Scherf (家屋). 地代 14 G 4 P, 端数 2 P. (地代計 14 G 6 P)
46. Carl Traugott Berthold (園地). 地代 4 T. (地代計 4 T)
- (iii) ケーテンスドルフ
47. Carl Gottfried Türpe (採草地と森林). 地代 2 G 8 P. (地代計 2 G 8 P)
48. Christian Gottlob Kunze (「農民」地). 地代 2 T 2 G 4 P. (地代計 2 T 2 G 4 P)
49. Johann Gottlob David Unger (家屋). 地代 3 G 6 P, 端数 1 P. (地代計 3 G 7 P)
50. Christian Friedrich Pfau (家屋). 償却一時金 6 T 12 G 5 P.
51. Johann Joseph Irmscher (農民地). 償却一時金 62 T 25 G.
52. Christiane Friederike Meinig (家屋). 償却一時金 3 T.

53. Johann Gottlob Reuter（家屋）．地代 2 G．（地代計 2 G）
54. Johann Benjamin Lindner（家屋）．地代 4 G 4 P．（地代計 4 G 4 P）
55. Johann Gottlob Schaale（家屋）．地代 2 G 8 P，端数 2 P．（地代計 3 G）
56. Johann August Nöbel（農民地）．償却一時金 46 T 27 G 5 P．
57. Johann Gottfried Otto（農民地）．償却一時金 20 T 25 G．
58. Johann Benjamin Irmscher（家屋）．償却一時金 3 T 12 G 5 P．
59. Johann Gottlob Wiesner（家屋）．地代 2 G 8 P，端数 1 P．（地代計 2 G 9 P）
60. Adam Gottfried Schuman（家屋）．地代 5 G 2 P，端数 2 P．（地代計 5 G 4 P）
61. 独身女性 Johanne Christiane Linke（家屋）．地代 2 G 4 P，端数 1 P．（地代計 2 G 5 P）
62. Johanne Susanne Wolf（家屋）．償却一時金 1 T 17 G 5 P．
63. Johanne Sophie Türpe（家屋）．地代 1 G 2 P，端数 3 P．（地代計 1 G 5 P）

この協定の義務者も厳密には不動産である．その総数は63とされているけれども、一連番号10および43と44では、その所有者が「同上」と記されている．したがって、本協定の義務者の実数は3人減少する．しかも、「同上」の表現から、「耕地 1 枚、採草地と池」と記された一連番号42の所有者は、家屋 2 個（一連番号43と44）の所有者であり、[農民] 地 9 の所有者は、「採草地と池」10の所有者である．この事情から類推すると、一連番号11の「耕地 1 枚」の所有者は一連番号29の家屋の所有者と、同一村落の同姓同名者であるから、両人は同一人と推定される．さらに、一連番号 3 と 6、20 と 32、23 と 27 の所有者も同一村落の同姓同名者であるので、それぞれ同一人であろう⁽²⁾．ところが、一連番号47の「採草地と森林」の所有者だけは、同一村落に同姓同名者がいないし、本協定の他の 2 村にも同姓同名者がいない．そこで、最後者のみを除いて、義務者の実数は、6 人を減じた 57 人と考えておきたい．

(注 1) Generalablösungskommission, Nr. 8173. Lehngeldablösungsrezeß vom 6. October / 31. December 1851 zwischen dem Rittergut Limbach und den Grundstücksbesitzern zu Limbach, Kändler und Köthensdorf. なお、この文書の所蔵館とその分類記号 Sächsisches Hauptstaatsarchiv, 10737 は省略し、資料分類番号に先立つ官庁名 Generalkommission für Ablösungen und Gemeinheitsteilungen は Generalablösungskommission と略記した．

(注 2) これと同じように、同一地区・村落内の同姓同名者は同一人である、と推定すると、本稿第 2 節（4）の一連番号 50 と 60、71 と 132、および、77 と 123 は同一人であり、さらに、第 3 節（1）の 51 と 55 も同様であろう．

(2) 償却地代額・償却一時金額の合計

本協定第 3 条の文言は、ザイデルが復刻した文章と若干異なるので、以下に全文を私訳する．

序文の 1 から 63 までは記された土地所有者は、第 2 条に述べられた、[領主の権利] 放棄を受け入れる．一連番号 2－6、18、26、34、38、40、50、52、56－58 と 62 の義務者は、第 4 条に各人別に記入された一時金を、協定承認の 4 週間後に、1850 年 1 月 1 日から 4 % の利子を付けて、[領主] von

Rhöden 男爵に支払うことを誓約する．それに対して，その他の番号で記された者は，51を除いて，各人別に記入された地代を，委託地代銀行に委託し，残った端数を，協定承認の公式通知後4週間以内に25倍の金額の支払いによって償還することを誓約する．51に挙げられた Johann Josef Irmscher は，彼がすでに1847年に一時金62ターラー25グロッシェンの支払いによって「義務を」償却した，と説明・証明し，その登録のためにのみ，協定に記録されることを希望した．

この協定は1851年10月6日に作成され，Gustav Friedrich Adolf Spitzner⁽¹⁾が署名した全国委員会によって，同年12月31日に承認された．特別委員会と全国委員会による文言修正箇所は紹介を省略する．

本節第1表において各義務者（厳密には各義務的不動産）に関して表示された，本協定第4条の内容を整理しよう．償却地代額の少ない順に，義務者の一連番号を村別に表示したものが，第2表である．この表の各村合計額の後の { } の数字は，償却地代額を償却一時金額に換算した数字である．第3表は同様に償却一時金について作成された．本協定の対象は保有移転貢租だけであるが，その償却地代額ないし償却一時金額が各村で同一額に評価される義務者は，一連番号6と40の僅か2人（第3表）のみである．そこで，この1事例においてだけは，本稿第2節第3表と第3節第3－第5表で表示した第3項，義務的不動産の合計個数と償却一時金額の個数分合計を〈 〉に付記した．

第2表 保有移転貢租償却地代額の村別一覧

(i) リンバッハ（4農民地，27家屋，1「耕地1枚」，1「採草地と池」と1「耕地1枚，採草地と池」）

1 G. [11]	12 G 9 P. [17]	1 T 7 G 9 P. [22]
2 G 9 P. [10]	13 G 4 P. [30]	1 T 19 G. [29]
3 G 5 P. [32]	16 G 7 P. [24]	1 T 22 G 9 P. [14]
4 G 3 P. [19]	17 G 3 P. [27]	1 T 23 G 1 P. [8]
5 G. [25]	17 G 7 P. [23]	2 T 3 G 4 P. [44]
5 G 2 P. [21]	19 G 6 P. [15]	2 T 17 G. [9]
7 G 3 P. [35]	24 G 3 P. [33]	3 T 17 G 4 P. [1]
8 G 3 P. [20]	26 G 5 P. [36]	3 T 27 G 6 P. [43]
8 G 5 P. [16]	29 G. [42]	4 T. [41]
10 G 7 P. [37]	1 T 2 G. [13]	4 T 5 G 8 P. [12]
11 G 5 P. [7]	1 T 4 G. [31]	
11 G 7 P. [39]	1 T 6 G. [28]	

(i) 合計 38 T 23 G 6 P {969 T 20 G-P}

(ii) ケンドラー（1園地と1家屋）

14 G 6 P. [45]	4 T. [46]
----------------	-----------

(ii) 合計 4 T 14 G 6 P {112 T 5 G-P}

(iii) ケーテンスドルフ（1 農耕地，8 家屋と1「採草地と森林」）

1 G 5 P. [63]	2 G 9 P. [59]	5 G 4 P. [60]
2 G. [53]	3 G. [55]	2 T 2 G 4 P. [48]
2 G 5 P. [61]	3 G 7 P. [49]	
2 G 8 P. [47]	4 G 4 P. [54]	

(iii) 合計

3 T-G 6 P {75T15G-P}

第3表 保有移転貢租償却一時金額の村別一覧

(i) リンバッハ（1 農耕地，8 家屋と1「耕地1枚」）

20G. [6,40]<2個;1 T10G>	3 T20G. [5]	9 T22G 5 P. [26]
1 T15G. [18]	8 T 7 G 5 P. [2]	15T. [34]
3 T10G. [4]	9 T 5 G. [3]	16T20G. [38]

(i) 合計

68T20G-P

(iii) ケーテンスドルフ（3 農耕地と4 家屋）

1 T17G 5 P. [62]	6 T12G 5 P. [50]	62T25G. [51]
3 T. [52]	20T25G. [57]	
3 T12G 5 P. [58]	46T27G 5 P. [56]	

(iii) 合計

145T-G-P

第4表は，第2表における保有移転貢租の償却地代額を償却一時金額に換算し，第3表の償却一時金額と合算して，村別に示したものである。

第4表 保有移転貢租の償却地代額と償却一時金の村別総計（償却一時金換算）

(i) リンバッハ

償却地代額から換算 969T20G-P

償却一時金額 68T20G-P

(i) 合計（5 農耕地，35家屋，2「耕地1枚」，1「採草地と池」および1「耕地1枚，採草地と池」） 1,038T10G-P

(ii) ケンドラー

償却地代額から換算（1 園地と1 家屋） 112T 5 G-P

(iii) ケーテンスドルフ

償却地代額から換算 75T15G-P

償却一時金額 145T-G-P

(iii) 合計（4 農耕地，12家屋および1「採草地と森林」） 20T15G-P

3村総計（9 農耕地，1 園地，48家屋，2「耕地1枚」，1「採草地と池」，1「採草地と森林」およ

び 1 「耕地 1 枚，採草地と池」)

1, 371T-G-P

したがって，本協定による保有移転貢租の償却地代額と償却一時金額の総計は，償却一時金に換算して，1, 371T-G-P となる．それを義務づけられていたのは，3 村のさまざまな不動産63であったが，主要なものは9農民地，1園地と48家屋であった．

(注 1) Gustav Adolf Friedrich Spitzner は1832年に全国委員会の法律関係顧問官に任命された．Teuthorn 1904, S. 51. 彼は37年から47年までも同じ地位にあった．50年以後は，70年にも，全国委員会主任であった．SHB 1837, S. 358; SHB 1847, S. 209; SHB 1850, S. 210; SHB 1870, S. 435. 次に SHB が刊行されたのは1873年であるが，全国委員会主任は空席となっている．SHB 1873, S. 434.

Ablösungen der Grundlasten auf dem westsächsischen Rittergut Limbach (3)

Nobushige Matsuo

- (I) Abschriften der Ablösungsrezessen von Paul Seydel (Vol. 37, No. 3)
- (II) Ablösungsrezeß Nr. 1659 der sächsischen Generalkommission für Ablösungen und Gemeinheitsteilungen (Vol. 38, No. 1)
- (III) Ablösungsrezeß Nr. 1660 der Generalkommission für Ablösungen und Gemeinheitsteilungen
 - (1) Namen aller Frondienst- und Naturalzinspflichtigen sowie ihre Immobilienvermögen
 - (2) Grundlasten jedes pflichtigen Immobilienvermögens und seine Ablösungsrente bez. – kapitalien
 - (3) Gesamtsumme der Ablösungsrenten und –kapitalien
- (IV) Ablösungsrezeß Nr. 8173 der Generalkommission für Ablösungen und Gemeinheitsteilungen
 - (1) Namen aller Lehngepfdpflichtigen, ihre Immobilienvermögen und Ablösungsrenten bez. –kapitalien
 - (2) Gesamtsumme der Ablösungsrenten und –kapitalien